



新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

サッカー日本代表元監督、オシム氏の生き様

校長 永浜 裕之

「オシムの通訳」として知られる千田善（ちだ ぜん）氏の回顧録には、オシム氏の生き様が愛情をもって描かれています。

平成18（2006）年7月、千田さんは、旧ユーゴスラヴィア出身の知人女性から、「オシムさんの通訳を探すよう頼まれたの。日本サッカー協会の面接を受ける気ある？」との電話を受けました。数日前にオシム氏のサッカー日本代表監督就任会見をテレビで見ていた千田さんは、思わぬ依頼に驚きつつ、「ある、ある。」と二つ返事で答えます。受諾した理由の一つは、高校の部活で汗を流した**元サッカー少年の好奇心**で、もう一つは、**オシムという人への興味**からだそうです。

千田さんは、東京大学卒業後の1983年、共産主義圏の多民族国家、旧ユーゴスラヴィアに留学します。セルヴィア・クロアチア語を学び、民族対立から起きたユーゴスラヴィア内戦をジャーナリストとして取材します。

オシム氏は、ユーゴスラヴィアの民族分断を象徴する人物です。1990年、ユーゴスラヴィア代表を率いたワールドカップイタリア大会で8強に進出し、その後も手腕を期待されましたが、祖国が分裂し、代表監督から身を引きます。故郷ボスニア・ヘルツェゴビナ首都サラエボが旧ユーゴスラヴィア軍に攻撃され、ユーゴスラヴィア代表監督を辞任します。**「私がサラエボのためにしてやれるのは、唯一これだけだ」**と辞任会見で静かに語ったものの、ユーゴスラヴィアを声高に批判することはしませんでした。

オシム氏はJリーグ・ジェフ市原（現・千葉）の監督経験もあり、チームに初タイトルをもたらした監督時代は「走るサッカー」が代名詞で、「走りすぎても死ぬことはない」との言葉は、身長1m90cmの巨体も相まって厳しい監督を思わせませす。

実際は、「選手はデリケートな存在で、ギターのように少し触るだけで大きな音を出す」との言葉から分かるように**繊細な気遣いの人**で、「監督」より「教師」と呼ばれることを好みました。選手に対して高圧的な態度をとることもなく、練習を通じて考えさせる指導を貫いたそうです。

考えさせる指導で有名なものは、色とりどりのゼッケンを使った練習です。「同じ色の選手にはパスを出せない」、「ワンタッチでつなぐ」などの条件を付け、瞬時の判断力を磨かせます。この練習では、初めのうちはチームが混乱し、練習がうまく進まないときもありましたが、**コーチや選手を責めることはなく**、記者団を前に、「**通訳が間違っただけで練習が進まない。**」とぼやき、千田さんが**慄然（ぶぜん）**として訳すと、にやりと笑うそうです。

「何かを成し遂げようと思えば、そのための準備を整えなければならない。」と語り、監督としての準備は徹底していました。水曜と土日はJリーグの試合を視察し、月曜と金曜はコーチと会議を行いました。会議では、試合のビデオを見ながら、「この場面はこうすべきだ。」とプレーを細かく説明します。会議は4時間にも及ぶことがあり、通訳を行う千田さんはくたくたになるものの、**日本サッカーの中核を覗き見る楽しみ**は大きなものであったそうです。

プロのすごさにも触れました。開始前の練習を見るだけで、点差まで含めて「こっこのチームが勝つ」と言い当てる場面が何度もありました。千田さんが良いプレーを見逃すと「**もう一つメガネをかけたらどうだ**」と、**笑顔でからかわれる**こともあったそうです。

千田さんはオシム氏に強く惹かれていきます。サッカー監督である以上に**教養が高く、フランス語、ドイツ語に堪能で、時にラテン語の警句を口にします**。「**サッカー選手になるか数学者になるか、若い頃悩んだ**」という逸話があり、息抜きで遊ぶトランプにめっぽう強く、勝つとフンと鼻を鳴らします。

欧州時代から多くのチームを栄冠に導いたオシム氏に、どこか影を感じるのは、ユーゴスラヴィア内戦の影響かもしれません。戦闘激化でサラエボに戻れず、2年半の間、家族と生き別れになり、近隣の国でチームを指導しました。**戦火のボスニアでの取材経験がある千田さんは、思わず感情移入してしまう**こともありました。

平成19（2007）年7月のアジアカップ・カタール戦では、「**1点を先制しながら引き分け、オシムがふがいなさに激高、通訳が泣いた**」と報じられます。真実は違うと千田さんは言います。試合後のミーティングで、「**プロは仕上げが肝心だ。満タンにしたミルクをお前たちは最後にひっくり返してしまった。俺は命をかけている。**」と話します。オシム氏の語気も強かったが、それ以上に、内戦・紛争を知る人が使った「**命**」という言葉の強さ、**チームと向き合う真摯な思いに胸を打たれた**そうです。後になってオシム氏から、「**恥ずかしいから、もう泣くなよ。**」とボソリと言われます。

このような日々を重ね、千田さんは「**日本代表の通訳**」である前に「**オシムの通訳**」でありたいという思いを強くしていきます。

夢のような日々は突然終わりました。平成19（2007）年11月16日、親善試合のエジプト戦に快勝した直後、オシム氏は脳梗塞で倒れます。昏睡状態が10日間続き、意識は回復しますがリハビリが必要となり、監督続行は不可能となります。日本サッカー協会ではオシム氏を解任しますが、症状悪化を懸念し、解任の事実には伝えられません。

病床に付き添う千田さんは、「試合に行かねば」、「メンバーを選ばねば」とオシム氏が口にするたびに胸が痛みます。同年のクリスマスに解任が告げられ、「自分がそうでないのに、選手に100%を要求することはできない」と、静かに受け入れ、リハビリが終わった平成21（2009）年1月、日本を離れます。千田さんは、オシム氏が病床で「**自分が日本にいた痕跡を残したい**」と語るのを聞き、オシム氏に係る3冊の本を出版するなど、その後も交流が続きましたが、昨年5月、オシム氏は帰らぬ人となりました。

令和5年度 教育実習生の言葉	
<p>教育実習を終えて 早稲田大学 教育学部 英語英文学科 大森 咲奈</p> <p>教育実習生の大森咲奈（おおもりさきな）と申します。6月12日から3週間、英語科を担当しました。私は新宿山吹高校に2018年に編入学し、普通科2部に所属していました。2020年に卒業し、今は大学で社会言語学を専攻し、言葉が実社会でどのように使われているかを研究しています。</p> <p>私はこの実習で、生徒に英語を「楽しい」と思ってもらうことを目標にしていました。最初は緊張してしまい、授業がうまくいかないと感じることも多くありました。しかし、授業を行っていく中で、生徒が英語を楽しく学ぶためには、まず先生自身が楽しんで授業をすることが大事だということに気づきました。そこからは私自身も英語を楽しむことを心がけ、最後の授業では、生徒から「授業が楽しかった」という言葉をもらい、とてもやりがいを感じました。実習では大変なことも多かったのですが、先生方から多くのご支援を頂き、乗り越えることができました。指導担当の八木先生をはじめ、先生方には心から感謝を申し上げます。</p> <p>私は山吹に入学したときにクラスメイトと年齢が離れていたのですが、そんな私を周りの人は自然に受け入れてくれました。山吹にはそうしたいい意味で「他人に無関心」な雰囲気があり、それが山吹ならではの魅力だと思います。皆さんも、山吹で自分なりの居心地のいい場所を見つけてみてください。短い間でしたが、大変お世話になりました。ありがとうございました。</p>	<p>「将来に悩む皆さんへ」 武蔵野大学 文学部 日本文学文化学科 杉原 花梨</p> <p>山吹高校に転入したとき、私は学校が好きではなく、入学してから登校しない日が多かったです。具体的に何が嫌だとか辛いだとかがあるわけでもなく、ただ漠然と「何となく行きたくない」という気持ちだけがありました。</p> <p>私が教職課程を履修したのも、何となく資格でも取ろうかな、くらいの軽い考えでのことでした。しかし、そうして教育について学んでいるうちに、高校生の自分がどういう状態だったのかを客観視できるようになり、同時に教育や学校という場所への興味を強く持ち、教員を志しました。</p> <p>高校生になって、次の進路やその先の将来のことを具体的に考えることも増えたと思います。考えても決まらなくて、焦ったり不安に思ったりしている人もいると思います。こういった悩みについて私から言えることは、どうせまた後で迷うので、今将来設計を決められないことを思いつめる必要はないということです。以前は教員になることなんて考えてもいなかった私が教育実習に来たように、大学で学び始めてから興味の方向や将来やりたいことが変わる人は多いです。興味のある方向に進んでも、違う方向に進んでも、いくらでも方向転換はできるので、皆さんには今の自分が満足できる進路を選んでほしいなと思います。</p> <p>この3週間、母校へ戻っての教育実習では多くのことを学ぶことができました。この経験は今後の私の人生の糧になると思います。本当にありがとうございました！</p>
<p>教育実習を終えて 獨協大学 外国語学部 英語学科 木村 航平</p> <p>新宿山吹高校の皆様、この度は3週間に渡って教育実習生として受け入れ、ご指導を頂きまして誠にありがとうございました。</p> <p>正直言いますと、実習当初は3週間の実習を無事に終わることができるのかと自問自答しながら、学校へ向かっていました。しかし、実習3日目から教壇に立ち、先の不安を感じつつ、毎日授業準備に取り組んでいると、次第に授業をすることへの楽しみを感じるようになりました。</p> <p>また、私は高校時代に軟式野球部に所属し、今の自分があるのは部活動のおかげであると振り返ります。ですから、部活で先輩の指導ができたことも感慨深いものがありました。</p> <p>私が最後まで全力で実習に取り組めたのは、時としてマイペースな私を信じ、全力で向き合い導いてくださった先生方、そして生徒の皆さんのおかげです。</p> <p>生徒の皆さんへ伝えたいことは、たとえ困難な状況でも、自分なりに努力を継続すれば、きっと何か希望の光が見えてくること、一生懸命な姿を見守り理解し、良き方向へ導いてくれる存在が必ずいることです。皆さんにも、そのような存在の先生や仲間がきっといるはずです。</p> <p>改めまして、このような貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。</p>	<p>教育実習を終えて 尚美学園大学 芸術情報学部 情報表現学科 野村 美和</p> <p>2週間、情報科の教育実習でお世話になりました。私が在籍していた頃よりも生徒の皆さんが落ち着いており、山吹らしい自由な校風を残しつつも、授業などにも真剣に出席しており、更に良い学校になっていると思いました。1つの授業あたりの生徒の人数が少ないことは、生徒の皆さんからみても学習がしやすいと思いますが、先生の立場から授業を行った時に、皆さん一人一人の学習スピードを見ることができ、沢山接することが出来るのでとても良い環境だと思いました。</p> <p>情報科の生徒の皆さんへ</p> <p>履修する単位が多く、慣れない情報機器やソフトの使い方でも苦戦することも沢山あると思います。でも、現在の社会において情報という分野は本当に何にでも使われています。凄いものを作ろうとすることだけが全てではなく、発表のスライド作りや文章の提出などの身近なところから、自分の表現したいことを相手に伝えられる手段としても皆さんが情報科で学んでいることは役に立つはずですよ。私も卒業後、ちょっとした資料を作るなど情報科でよかったなと思う機会が何度もありました。是非沢山のことを学んでください。山吹の校風を活かし、皆さんが素敵な高校生活を送れることを願っています。本当にお世話になりました。</p>
<p>定時制課程 学校行事予定</p> <p>7月1日（月）自己探索学習③ 13日（木）卒業生を囲む会 14日（金）保護者会 17日（月）海の日 18日（火）～19日（水）個別面談 20日（木）全校集会、球技大会 21日（金）夏季休業日（始）</p>	<p>通信制課程 学校行事予定</p> <p>7月1日（土）スクーリング1-9 8日（土）スクーリング1-10 15日（土）スクーリング1-11 21日（金）Web学習コース夏季集中スクーリング① 22日（土）Web学習コース夏季集中スクーリング② 24日（月）Web学習コース夏季集中スクーリング③ 25日（火）Web学習コース夏季集中スクーリング④ 26日（月）Web学習コース夏季集中スクーリング⑤</p>